

(様式第1号)

## 自己評価及び外部評価結果票

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4171100011		
法人名	社会福祉法人真栄会		
事業所名	グループホーム菜のはな		
所在地	佐賀県神埼市千代田町詫田989番地		
自己評価作成日	令和6年2月10日	評価結果市町村受理日	令和6年5月1日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp">www.kaigokensaku.mhlw.go.jp</a>
-------------	--

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 佐賀県社会福祉協議会		
所在地	佐賀県佐賀市天神一丁目4番15号		
訪問調査日	令和6年3月4日	外部評価確定日	

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>・コロナ感染症が5類に移行しても法人では、以前のような感染症対策を行っている。外出支援は受診や車から降りないドライブに限られているが見物者が少ない場所では車から降り季節の花々や催事を見物している。また、室内で行うレクリエーションやお茶会、誕生会、季節に合った催事などご利用者の笑顔を引き出せる行事を計画し実行している。</p> <p>・協力医療機関医師、看護師と連携を取りご利用者の健康管理を行っている。</p> <p>・重度化され医療的処置が随時必要となりグループホームでの生活が困難となられたご利用者は隣接する特別養護老人ホームこすもす苑入所がスムーズに行えるよう支援している。</p> <p>・機械浴を設置し普通浴での入浴が困難となられた方も体に負担なく入浴を行っている。</p>
--

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>敷地内にはサービス付き高齢者向け住宅や特別養護老人ホームなど同法人の事業所が隣接されている。コロナ以前は法人全体で地域との関りを深め地元根差した取り組みを実施されていた。災害時には互いに協力できるようになっており、平屋のグループホームではあるが他事業所に垂直避難することも可能となっている。また、協力医療機関とは24時間365日連携が図れ、終末期には連携を図り看取りまで対応できる環境となっている。入居者に安心して生活を送って頂くために、情報を収集し共有することで一人ひとりに即したケアを提供されている。管理者を中心に丁寧な対応を心掛け、職員の都合ではなく入居者のペースに合わせることで、生活の場として施設本来の役割を果たしている事業所である。</p>
---

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(南)	自己評価／ユニットB(北)	外部評価	
			(事業所記入欄)	(事業所記入欄)	(評価機関記入欄)	次のステップに向けて期待したい内容
			実施状況	実施状況	実施状況	
<b>I. 理念に基づく運営</b>						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	新型コロナウイルス感染症が5類に移行してからも法人では以前のような感染症対策を行っており『地域との関わり』は出来ていないが日常生活の中で『思い』を聞き出しケース検討、申し送りノートを活用し職員間で共有することで理念にある『自由で楽しく安心して生活できる心地よい居場所』の提供に繋げている。	新型コロナウイルス感染症が5類に移行してからも法人では以前のような感染症対策を行っており『地域との関わり』は出来ていないが日常生活の中で『思い』を聞き出しケース検討、申し送りノートを活用し職員間で共有することで理念にある『自由で楽しく安心して生活できる心地よい居場所』の提供に繋げている。	事業所内に理念が掲示されており、会議や日々の会話の中で理念を振り返る機会を設けられ、入居者が安心して生活出来るように支援されている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	感染症対策のため外部との交流は出来ていない。 敬老の日には各地区の自治会よりお祝いの品が届けられている。	感染症対策のため外部との交流は出来ていない。 敬老の日には各地区の自治会よりお祝いの品が届けられている。	コロナ以前は法人で祭りや敬老会など地域の方に参加して頂き社会性を感じることが出来るように支援をされていた。現在は、感染症予防により地域との関わりは希薄になっているが感染状況次第で関係性の再構築に向け取り組まれる予定となっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	感染症対策のため外部との交流は出来ていない。 入所申込や相談に見えた方々には認知症に対しての支援方法等のアドバイスを行っている。	感染症対策のため外部との交流は出来ていない。 入所申込や相談に見えた方々には認知症に対しての支援方法等のアドバイスを行っている。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	外部との接触を避けるため運営推進会議は行わず郵送にて毎月の報告を行っている。文章の中で意見や感想をお願いしている。	外部との接触を避けるため運営推進会議は行わず郵送にて毎月の報告を行っている。文章の中で意見や感想をお願いしている。	現在は書面での開催が基本となり委員から意見等が上がれば情報を共有されている。	

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(南)	自己評価／ユニットB(北)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			(事業所記入欄) 実施状況	(事業所記入欄) 実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	感染症前は運営推進会議の席で取り組み等を報告していたが現在は疑問点や必須事項等に関して不明な事柄は連絡を行っている。	感染症前は運営推進会議の席で取り組み等を報告していたが現在は疑問点や必須事項等に関して不明な事柄は連絡を行っている。	コロナワクチン接種に関しては、市役所と調整を行い実施していた。コロナ以前は、医療費控除など相談するケースもあった。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束適正化委員会を設置し定期的に開催している。事例等を交えながら全職員が理解しケアに取り組むよう指導している。	身体拘束適正化委員会を設置し定期的に開催している。事例等を交えながら全職員が理解しケアに取り組むよう指導している。	家族には、契約時より身体拘束についての指針を説明している。日々のケアで気になることがあれば、職員同士で話し合い身体拘束や虐待防止に向けて取り組まれている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	介護士会議、申し送りノートを活用し高齢者虐待』についての指導を行っている。言葉による虐待等は気づいていないことも多くあり個別指導も行い虐待防止に努めている。	介護士会議、申し送りノートを活用し高齢者虐待』についての指導を行っている。言葉による虐待等は気づいていないことも多くあり個別指導も行い虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度については利用されている方はおられない。会議の中で研修を行っている。過介護とならないように時間を要しても出来ていることは『待つ』ように指導を行い自立支援に繋げている。	成年後見制度については利用されている方はおられない。会議の中で研修を行っている。過介護とならないように時間を要しても出来ていることは『待つ』ように指導を行い自立支援に繋げている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書、重要事項の内容を分かりやすい言葉に変換し説明を行っている。理解されたうえで同意を得ている。介護報酬改定、実費負担金等改定時は文書で報告し同意を得ている。	契約書、重要事項の内容を分かりやすい言葉に変換し説明を行っている。理解されたうえで同意を得ている。介護報酬改定、実費負担金等改定時は文書で報告し同意を得ている。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(南) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(北) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置している。伝を連絡や面会時にご意見、要望を尋ねている。 申し送りノートを活用し職員に周知している。 施設運営にかかわる事柄は法人で対応している。	玄関に意見箱を設置している。伝を連絡や面会時にご意見、要望を尋ねている。 申し送りノートを活用し職員に周知している。 施設運営にかかわる事柄は法人で対応している。	意見箱を設置されているが、投函された実績はなく面会や電話でのやり取りの際に直接伺いご意見が反映出来るように取り組まれている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	自己管理シート、自己評価等を活用し職員の意見や要望に関しては年に2回個人面談を行う中で出来る限りの改善や整備に努めている。 早急な改善等に関してはその都度行っている。	自己管理シート、自己評価等を活用し職員の意見や要望に関しては年に2回個人面談を行う中で出来る限りの改善や整備に努めている。 早急な改善等に関してはその都度行っている。	職員が年に2回 自己管理シートを提出することで設備などを購入する事例もある。今後は職員数を安定させるために外国人雇用の強化を検討されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人施設長、事務長との面談を通じ目標達成進捗状況、勤務状態を踏まえ職場環境の整備、労働条件の整備に努めている。	法人施設長、事務長との面談を通じ目標達成進捗状況、勤務状態を踏まえ職場環境の整備、労働条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の力量を把握し個別に指導を行っている。 研修等は一リモート研修を利用している。	職員の力量を把握し個別に指導を行っている。 研修等は一リモート研修を利用している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	対面での研修は行っていないため同業者との交流は出来ていない。	対面での研修は行っていないため同業者との交流は出来ていない。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(南) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(北) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)		
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>							
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の調査でご本人、ご家族の要望や不安に思われている事を聞き面談時に不安解消を行う事で安心して生活できるよう努めている。	入居前の調査でご本人、ご家族の要望や不安に思われている事を聞き面談時に不安解消を行う事で安心して生活できるよう努めている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	聞き取りを行い不安な事が払拭できるようなサービスを提案している。	聞き取りを行い不安な事が払拭できるようなサービスを提案している。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所前の状況、情報をご家族に了承を得て各機関に情報提供をお願いしている。他の利用に関しては法人と連携し対応している。	入所前の状況、情報をご家族に了承を得て各機関に情報提供をお願いしている。他の利用に関しては法人と連携し対応している。			
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	役割を持ち生活できるよう家事手伝い等ご利用者と一緒に行い言葉かけを行いながら本人の意向等確認している。	役割を持ち生活できるよう家事手伝い等ご利用者と一緒に行い言葉かけを行いながら本人の意向等確認している。			
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	感染症対策のためコロナ感染症発症時には面会は全面中止となるがリモート面会等を通し家族と会えるように支援している。話すことが困難な方には職員が付き添っている。	感染症対策のためコロナ感染症発症時には面会は全面中止となるがリモート面会等を通し家族と会えるように支援している。話すことが困難な方には職員が付き添っている。			

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(南) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(北) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族の事や幼少期の記憶等職員が会話をする中で聞き取りを行い長く記憶が保てるよう支援している。馴染みの方との面会は中止している。	ご家族の事や幼少期の記憶等職員が会話をする中で聞き取りを行い長く記憶が保てるよう支援している。馴染みの方との面会は中止している。	現在は家族であれば玄関での面会が可能となっている。また正月には外出をされるなど感染状況に応じて柔軟に対応されている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者の生活歴、性格、知り合い等馴染みの関係が早くに出来るよう職員が間に入りコミュニケーションを図っている。トラブル回避のためどうしても性格的に合わない方に対しては食事の際の席を移動している。	ご利用者の生活歴、性格、知り合い等馴染みの関係が早くに出来るよう職員が間に入りコミュニケーションを図っている。トラブル回避のためどうしても性格的に合わない方に対しては食事の際の席を移動している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても併設の特別養護老人ホームに入所された方に関しては施設職員と連携を行っている。ご家族からの相談があれば助言を行っている。	契約が終了しても併設の特別養護老人ホームに入所された方に関しては施設職員と連携を行っている。ご家族からの相談があれば助言を行っている。		

### Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	一人一人の要望や意向等は一緒にお話をする中でさりげなく聞き可能な限り希望に添えるような支援を心掛けている。意思表示が困難な方はケース検討を行い職員間で話し合いを行っている。	一人一人の要望や意向等は一緒にお話をする中でさりげなく聞き可能な限り希望に添えるような支援を心掛けている。意思表示が困難な方はケース検討を行い職員間で話し合いを行っている。	日々の会話の中で一人ひとりの意向を確認しケアに反映されている。また家族から情報を収集することでその人らしい生活が提供できるように工夫されている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の生活歴や暮らし方等ご本人、ご家族、担当ケアマネジャーより得た情報を職員に周知している。	入居前の生活歴や暮らし方等ご本人、ご家族、担当ケアマネジャーより得た情報を職員に周知している。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(南) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(北) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録システム、管理日誌、申し送りノート等を活用し状況把握を行っている。 状態変化時は適宜ケース検討を行っている。	介護記録システム、管理日誌、申し送りノート等を活用し状況把握を行っている。 状態変化時は適宜ケース検討を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護士会議でケース検討を行いケアプラン作成について今後行う支援の話し合いを行っている。ご家族には現状を報告し希望や意向があれば可能な限り出来るサービスを取り入れている。 状態変化時にはその都度プランの変更を行っている。	介護士会議でケース検討を行いケアプラン作成について今後行う支援の話し合いを行っている。ご家族には現状を報告し希望や意向があれば可能な限り出来るサービスを取り入れている。 状態変化時にはその都度プランの変更を行っている。	以前は家族も含めカンファレンスを実施されていたが感染症予防のためにケース検討や書面での確認をするように工夫されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の状況は介護記録システムを活用している。申し送りをし支援経過、モニタリング、アセスメントの再確認を行っている。	日々の状況は介護記録システムを活用している。申し送りをし支援経過、モニタリング、アセスメントの再確認を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族の意向、状況により変化するニーズに対し話し合いを行い出来る限り意向に沿うようなサービスを取り入れている。	ご家族の意向、状況により変化するニーズに対し話し合いを行い出来る限り意向に沿うようなサービスを取り入れている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍の中実行することが出来ない。 以前は地域への買い物や外食を行っていた。	コロナ禍の中実行することが出来ない。 以前は地域への買い物や外食を行っていた。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(南) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(北) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	入居前にかかりつけ医についての 希望を聞いている。協力医療機関 への変更時は医師同士の情報提供 がスムーズに行えるようサポートを 行っている。	入居前にかかりつけ医についての 希望を聞いている。協力医療機関 への変更時は医師同士の情報提供 がスムーズに行えるようサポートを 行っている。	かかりつけ医の継続も可能である が、協力医療機関に移行することで 週に1回の往診と24時間体制で急変 時の対応が可能となる。他科への 受診の際は職員と家族が待ち合わ せを行い対応するようにされている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪 問看護師等に伝えて相談し、個々の利用 者が適切な受診や看護を受けられるよう に支援している	状態変化時、気づき等看護師に報 告を行っている。 特変時には協力医療機関医師に報 告を行い指示を仰いでいる。	状態変化時、気づき等看護師に報 告を行っている。 特変時には協力医療機関医師に報 告を行い指示を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。又は、そうした場合に備え て病院関係者との関係づくりを行ってい る。	入院時にはご家族と受診を行い医 療機関には情報提供を行っている。 ご家族と共に医師からの説明を受 けている。 退院に向けては連携室、看護師と 連絡を取り合っている。	入院時にはご家族と受診を行い医 療機関には情報提供を行っている。 ご家族と共に医師からの説明を受 けている。 退院に向けては連携室、看護師と 連絡を取り合っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合 いを行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化した場合、終末期 の施設の方針を説明している。 医師が看取りと判断しご家族に説明 後事業所での看取りを希望されるご 家族には詳しく指針の説明を行い出 来る処置、できない事の説明を行っ ている。系列の特養、病院入院を希 望された際はスムーズに入所、入院 が行われるよう関係各所と連携を 取っている。	入居時に重度化した場合、終末期 の施設の方針を説明している。 医師が看取りと判断しご家族に説明 後事業所での看取りを希望されるご 家族には詳しく指針の説明を行い出 来る処置、できない事の説明を行っ ている。系列の特養、病院入院を希 望された際はスムーズに入所、入院 が行われるよう関係各所と連携を 取っている。	近年も看取りを実施されており、点 滴や在宅酸素などの医療行為であ れば協力医療機関や隣接する特別 養護老人ホームの看護師が対応す ることが可能となっている。	



自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(南) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(北) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人では赤十字、消防署等の外部講師を招き研修を行っていたが、感染症防止のため現在は中止している。	法人では赤十字、消防署等の外部講師を招き研修を行っていたが、感染症防止のため現在は中止している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回避難訓練を行っている。事業所では水害訓練も独自に行っている。地域の方の参加は見合わせている。	年に2回避難訓練を行っている。事業所では水害訓練も独自に行っている。地域の方の参加は見合わせている。	消防訓練には消防署や消防設備点検会社の協力により実施されている。また水害などの際には隣接するサービス付高齢者向け住宅や特別養護老人ホームと協力をし、避難することも可能となっている。また、備蓄も法人で管理されている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	法人全体で接遇に取り組んでいる。職員同士が注意し合える関係になるような環境を作れるよう日々話し合いを行っている。ご利用者を尊重しプライバシーを損なうことのない言葉かけや対応を行っている。	法人全体で接遇に取り組んでいる。職員同士が注意し合える関係になるような環境を作れるよう日々話し合いを行っている。ご利用者を尊重しプライバシーを損なうことのない言葉かけや対応を行っている。	人格を尊重するために入居者の立場になって今から何をやるのかをケアの前に伝え、促すように心掛けられている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常行う言葉かけやお喋り、コミュニケーションを図る中で自己決定が出来るようイエス、ノー方式を取り入れている。	日常行う言葉かけやお喋り、コミュニケーションを図る中で自己決定が出来るようイエス、ノー方式を取り入れている。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(南) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(北) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者本位の支援を徹底している。 その方に合った日常の過ごし方を話し合いを行いながら実践している。 意思表示が出来る方に対してはその方の意向に沿った支援を行っている。	ご利用者本位の支援を徹底している。 その方に合った日常の過ごし方を話し合いを行いながら実践している。 意思表示が出来る方に対してはその方の意向に沿った支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	就寝前、起床時には着替えを行いご自分で準備をされる方以外は職員が洋服の準備を行っている。 起床時には全員洗顔、口腔ケア、整髪等を行い身だしなみを整えている。	就寝前、起床時には着替えを行いご自分で準備をされる方以外は職員が洋服の準備を行っている。 起床時には全員洗顔、口腔ケア、整髪等を行い身だしなみを整えている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	感染症防止のため職員がご利用者と同席して食事をする機会はないがご利用者の嗜好品の把握は出来ている。 食事の準備は出来ていないが後片付けは一緒に行っている。	感染症防止のため職員がご利用者と同席して食事をする機会はないがご利用者の嗜好品の把握は出来ている。	事業所内で炊飯や味噌汁を準備しおかずは特別養護老人ホームより提供される。月に1回の給食会議で意見を反映することも可能で管理栄養士がグループホームに来て嗜好品などを確認される。 日課として毎朝牛乳が提供されている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	併設施設の管理栄養士が献立を作成し調理を行っている。残渣の状況や食事形態の変更はその都度行っている。 水分摂取の時間以外にも嗜好品を提供する事で水分量、食事摂取量は確保できている。	併設施設の管理栄養士が献立を作成し調理を行っている。残渣の状況や食事形態の変更はその都度行っている。 水分摂取の時間以外にも嗜好品を提供する事で水分量、食事摂取量は確保できている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを行い洗口液を使用し口腔内の清潔を保っている。 就寝前は職員が介助を行い磨き残しがないか確認を行っている。	毎食後の口腔ケアを行い洗口液を使用し口腔内の清潔を保っている。 就寝前は職員が介助を行い磨き残しがないか確認を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(南) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(北) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄パターンを周知しトイレ誘導を行っている。座位が取れる方に対しては基本トイレ誘導を行っている。	排泄パターンを周知しトイレ誘導を行っている。座位が取れる方に対しては基本トイレ誘導を行っている。	入所時はおむつの方でも排泄パターンを把握し布パンツに移行するような事例もありトイレ誘導を基本とされている。状態に応じて夜間帯にポータブルトイレやパッドを使用するケースもある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	起床後の冷たい牛乳の提供、必要な水分量の確保を行っている。体操や腹部マッサージを行い自然排便を促している。	起床後の冷たい牛乳の提供、必要な水分量の確保を行っている。体操や腹部マッサージを行い自然排便を促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	状態により普通浴。機械浴を使用している。入浴は毎日準備されている。入浴拒否がある方は毎日言葉かけを行っている。入浴は原則週3回、状況により清拭を行っている。	状態により普通浴。機械浴を使用している。入浴は毎日準備されている。入浴拒否がある方は毎日言葉かけを行っている。入浴は原則週3回、状況により清拭を行っている。	週に3回の入浴を基本とし浴槽をまたぐことができない方や不安を感じる方には機械浴を使用している。また入浴ができない状況の際には清拭などで対応し清潔な保持に努められている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人のペースや状況により居室静養の言葉かけを行っている。就寝前はパジャマに更衣、寝具調整、クッション等を利用して安楽な姿勢で眠られるよう支援している。	ご本人のペースや状況により居室静養の言葉かけを行っている。就寝前はパジャマに更衣、寝具調整、クッション等を利用して安楽な姿勢で眠られるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬管理は職員が行っている。薬情と既往歴を照らし合わせすぐに確認が出来るよう薬情ファイルを作成している。	服薬管理は職員が行っている。薬情と既往歴を照らし合わせすぐに確認が出来るよう薬情ファイルを作成している。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(南)	自己評価／ユニットB(北)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			(事業所記入欄) 実施状況	(事業所記入欄) 実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	役割を持って生活できるよう一人一人に合わせた家事手伝いを職員と一緒にしている。 嗜好品の購入は担当職員が行っている。個別に買い物頼まれる方もおられる。	役割を持って生活できるよう一人一人に合わせた家事手伝いを職員と一緒にしている。 嗜好品の購入は担当職員が行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	感染症防止の為事業所が行う外出支援は出来ない。 ご家族の要望での外出は極力希望に沿うよう行っている。	感染症防止の為事業所が行う外出支援は出来ない。 ご家族の要望での外出は極力希望に沿うよう行っている。	コロナ以前は毎月1回の外出を実施していたが、現在は感染状況に応じて散歩やドライブなどが実施されている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理はご家族が行われている。1名施設が預かっている。	金銭管理はご家族が行われている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	ご家族からの電話は取次を行っているが自ら電話を掛けるよう頼まれる方はおられない。手紙はご家族や親類の方から届いたときに本人に渡している。	ご家族からの電話はないがリモートの取次は行っている。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(南)	自己評価／ユニットB(北)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			(事業所記入欄) 実施状況	(事業所記入欄) 実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	光、音、湿度、室温の調節は適宜行っている。フロアに温度、湿度計を設置している。 フロアには季節ごとに花を飾り庭の木々や外の景色を眺めることで季節を感じられている。	光、音、湿度、室温の調節は適宜行っている。フロアに温度、湿度計を設置している。 フロアには季節ごとに花を飾り庭の木々や外の景色を眺めることで季節を感じられている。	ユニットに入るとダイニングとリビングがあり、天井が高く開放的な空間となっている。隅々まで整理整頓されており、利用者同士がコミュニケーションを図り、レクリエーションを楽しめるようになっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアにソファーを設置し気の合う方々と歌番組(録画)視聴等されるよう空間作りの工夫を行っている。	フロアにソファーを設置し気の合う方とテレビを観られたり談笑できるよう空間作りの工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居される時に安心感を持ち居心地よく過ごされるよう使い慣れたものを持ってきていただくよう話している。 写真、置物類を持参される事が多くある。	入居される時に安心感を持ち居心地よく過ごされるよう使い慣れたものを持ってきていただくよう話している。 写真、置物類を持参される事が多くある。	居室には ベッド、クローゼット、エアコンが設置されており、他に馴染の物等自由に持ち込むことができるようになっている。テレビや椅子などを持ち込まれたり、壁に写真を掲示され自分の落ち着いた空間を作り上げることができるようになっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	場所が分からず不穏にならないように文字や飾り物を利用し自立を促している。	場所が分からず不穏にならないように文字や飾り物を利用し自立を促している。		

V. サービスの成果に関する項目(目標指標項目)アウトカム項目)(事業所記入)				
※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します				
項 目		取 り 組 み の 成 果		
		ユニットA	ユニットB	
↓ 該当するものに○印をつけてください				
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。  (参考項目:23,24,25)	○	○	1. ほぼ全ての利用者の
				2. 利用者の2/3くらいの
				3. 利用者の1/3くらいの
				4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。  (参考項目:18,38)	○	○	1. 毎日ある
				2. 数日に1回程度ある
				3. たまにある
				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。  (参考項目:38)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。  (参考項目:36,37)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。  (参考項目:49)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。  (参考項目:30,31)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない

項 目		取 り 組 み の 成 果		
		ユニットA	ユニットB	
		↓ 該当するものに○印をつけてください		
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。  (参考項目:28)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。  (参考項目:9,10,19)	○		1. ほぼ全ての家族と
				2. 家族の2/3くらいと
				3. 家族の1/3くらいと
				4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。  (参考項目:2,20)	○	○	1. ほぼ毎日のように
				2. 数日に1回程度ある
				3. たまに
				4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。  (参考項目:4)	○	○	1. 大いに増えている
				2. 少しずつ増えている
				3. あまり増えていない
				4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働けている。  (参考項目:11,12)	○	○	1. ほぼ全ての職員が
				2. 職員の2/3くらいが
				3. 職員の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	○	1. ほぼ全ての家族等が
				2. 家族等の2/3くらいが
				3. 家族等の1/3くらいが
				4. ほとんどいない